

+*arts*
NPO法人プラス・アーツ

法人概要

◎ 法人概要

会社名：特定非営利活動法人プラス・アーツ

所在地：〈神戸事務所〉〒651-0082 神戸市中央区小野浜町 1-4 デザイン・クリエイティブセンター神戸 307

TEL：078-335-1335 FAX：078-335-1339

〈東京事務所〉〒131-0046 東京都墨田区京島 1-30-5 コーポ幸 1 階

TEL：03-5655-2369 FAX：03-5655-2370

設立日：2006年7月28日

沿革：2006年 大阪市に特定非営利活動法人プラス・アーツを設立

2009年 東京都墨田区に東京事務所開設

2012年 大阪事務所を神戸事務所へ移転

従業員数：10人

主な事業内容：アート事業（イベント）の企画・運営（まちづくり・防災・環境・教育・福祉・国際協力）

アート事業の普及啓発、防災商品の展示・販売

URL：<http://www.plus-arts.net/>

主な受賞歴：『国際交流基金地球市民賞（2014年度）』受賞

『第14回防災まちづくり大賞消防科学センター理事長賞』受賞

『第1回まちづくり法人国土交通大臣表彰[まちの安全・快適化部門]国土交通大臣賞』受賞

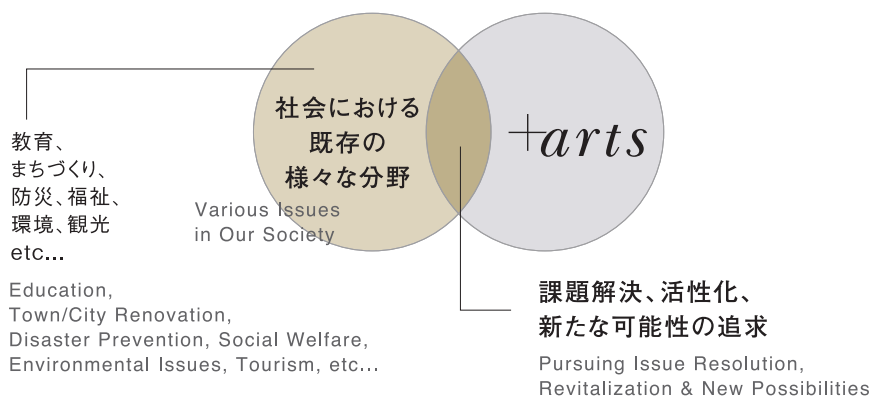
『第6回パートナーシップ大賞グランプリ』受賞（東京ガス株式会社との協働）

『2012年度グッドデザイン賞[生活支援のためのサービス・システム部門]』受賞

◎ 活動目的

混沌とする現代社会の中で、社会におけるさまざまな分野で沈滞化し、活力を失っていたり、大きな課題を抱え障壁に直面していたり、行き場を失い方向性を模索したりしている状況を目の当たりにします。社会が複雑化していくなかで、人々のニーズは多様化し、これまでの常套手段が通じなくなったり、一つの専門性では問題解決を図れなくなってきており、そうした局面を打破するためには、規制概念にとらわれない新たな発想や新しい価値観に支えられた無限の可能性を秘めた創造力が必要とされているといえるのではないのでしょうか。

こうした社会背景の中で、特定非営利活動法人プラス・アーツは『教育』、『まちづくり』、『防災』、『福祉』、『国際協力』といった社会の既存の分野に対して”アート”そのものを持ち込むのではなく、アートの発想やアーティストの持つ既成概念に捉われない創造力を導入し、それらの分野がそれぞれ抱えている様々な課題や問題を解決し、再活性化させることを活動目標に掲げています。



理事会構成

◎ 理事長

永田 宏和

株式会社 iop 都市文化創造研究所 代表取締役

デザイン・クリエイティブセンター神戸 副センター長

1968年兵庫県生まれ。93年大阪大学大学院修了後、株式会社竹中工務店入社。2001年に同社を退社し、まちづくり・アート・建築の3つの分野の企画、プロデュースに取り組む「iop都市文化創造研究所」を設立（2006年株式化）。2006年NPO法人プラス・アーツ設立、理事長に就任。全国各地及び海外における防災教育普及に取り組んでおり、防災イベントの企画・運営や防災教育教材の開発などを数多く手掛ける。また、東京ガスや無印良品など企業の防災アドバイザーや防災に関する講演や講座の講師も数多く務める。2012年デザイン・クリエイティブセンター神戸の副センター長に就任。



◎ 副理事長

藤 浩志

美術家 / 藤浩志企画制作室代表・十和田市現代美術館 館長

1960年鹿児島生まれ。京都市立芸術大学染織科在学中劇団を引退した後、京都情報社設立。美術と社会の関係を探り始める。同大学院修了後パプアニューギニア国立芸術学校勤務。価値のないとされる存在が感動に変化することを美と確信し88年帰国。東京の都市計画事務所勤務を経て92年藤浩志企画制作室を設立。[地域・協力・適正技術]から発生する表現活動を志向する。97年福岡にStudio Farm設立。[対話]と[地域実験]によってイメージを探り、システム型の表現を展開。近年はこれまで蓄積された素材を集積し、表現活動の再編集による作品化を模索しはじめる。



◎ 理事

鳴海 邦碩

大阪大学名誉教授、関西大学客員教授

室崎 益輝

神戸大学名誉教授・兵庫県立大学防災教育センター長

渥美 公秀

大阪大学大学院人間科学研究科教授・日本災害救援ボランティアネットワーク理事長

小暮 宣雄

京都橘大学文化政策学部教授

田村 太郎

一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事・つなプロ代表監事

加藤 文崇

les contes 代表

太田 航平

特定非営利活動法人 地球環境デザイン研究所 ecotone 代表

◎ 監事

木田 恵利香

木田会計事務所

リサーチプロジェクト

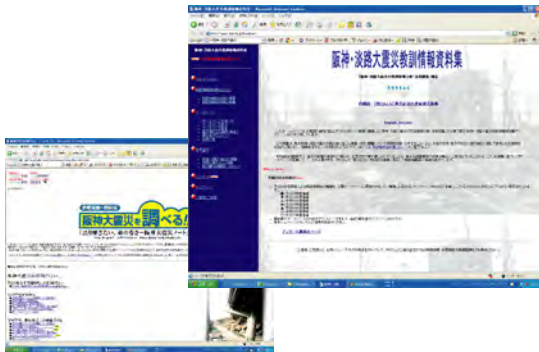
「阪神・淡路大震災」リサーチプロジェクト

被災者の体験から得られた防災の知識や技を収集

阪神・淡路大震災の10周年事業として、次世代を担う子どもたちに震災から得られた教訓を伝える教育プログラムを実施することが決定し、私たちは様々な方法で被災者の体験談を収集する「リサーチプロジェクト」を展開しました。学生、社会人を中心に約20名のボランティアメンバーが集まり、インターネット、体験手記、震災ミュージアムに展示されている資料、など多様なメディアから情報を収集するとともに、被災者の声を直接集めるために「ヒヤリング調査」や「アンケート調査」も実施しました。

インターネット

インターネットに掲載されている震災時の様々な情報を収集しました。この調査では、一つ一つの情報を詳しく知ることよりも、どこにどんな情報があるのか大枠を把握するのに役立ちました。



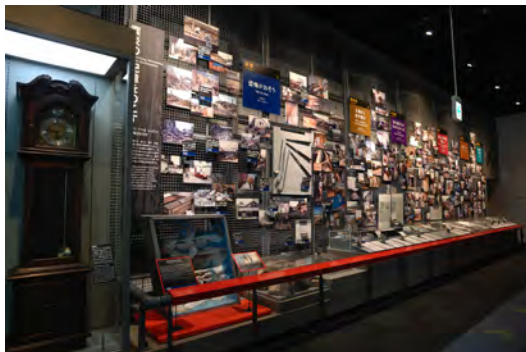
体験手記

震災後たくさんの体験手記が出版されていたので、ほぼそれらを全て収集し、読破しました。体験手記からは、記録写真では絶対にわからない、被災者の心の中にある様々な思いを知ることができました。



震災ミュージアム

震災を記念して開設された「阪神淡路大震災記念・人と防災未来センター」を何度も見学し、展示されている被災者が残した震災当時の資料や写真から、被災現場でしかわからない多くの教訓を学びました。



被災者へのヒヤリング・アンケート

最も重要だったのが被災体験者へのヒヤリング、アンケート調査でした。具体的には、震災で様々な体験をされた167人の被災者への聞き取り調査を実施、長時間に及ぶ被災体験談の中から多くの事を教わりました。



地震イツモノート



阪神・淡路大震災の
被災者167人にきいた
キモチの防災マニュアル

地震イツモノート

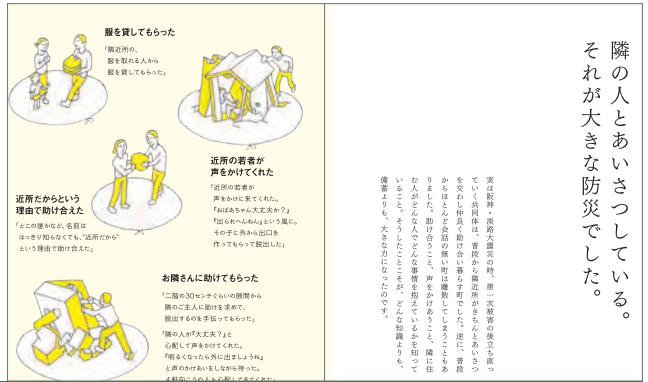
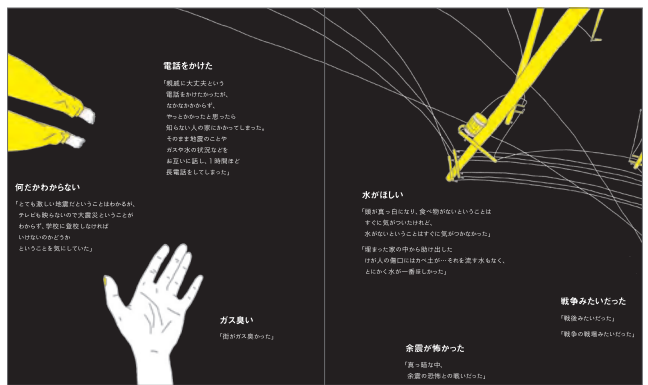
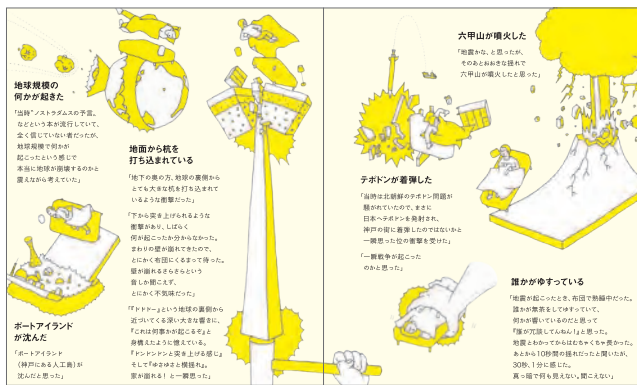
地震イツモプロジェクト：編
渥美公秀：監修
寄藤文平：絵
NPO 法人プラス・アーツ：協力
木楽舎（2007年4月発行）

多くの犠牲者を出した1995年1月17日の阪神・淡路大震災。この本は、その被災者167人の声を集めた本です。あの時、現地にいた方々が「どんなことを感じたのか」「何が必要だったのか」を知ることが一番の備えになる。そんな「キモチ」の防災マニュアルとして2007年に出版しました。

167人の体験談
アンケート117人・ヒアリング50人

↓

『地震イツモノート』



隣の人とあいさつしている。
それが大きな防災でした。

地震イツモノートシリーズ

地震イツモノート（文庫版）

地震イツモプロジェクト：編
 渥美公秀：監修
 寄藤文平：絵
 NPO 法人プラス・アーツ：協力
 ポプラ社

『地震イツモノート』の文庫版。



親子のための地震イツモノート

地震イツモプロジェクト：編
 寄藤文平：絵
 NPO 法人プラス・アーツ：協力
 ポプラ社（2011年08月発行）

10万部を突破した『地震イツモノート』子ども版。親子で一緒に読める防災マニュアルです。



地震イツモキット

NPO 法人プラス・アーツ+ 文平銀座：監修
 木楽舎（2011年08月発売）

『地震イツモノート』の教訓から生まれた防災グッズセット。

【セット内容】

（左上）防災大判ハンカチ

（左下）ハンドブック

（中央）LEDライト&ホイッスル

（右下）緊急時連絡カード



イザ！カエルキャラバン！



イザ！ カエルキャラバン！ MESSAGE FROM 1995 AT KOBE

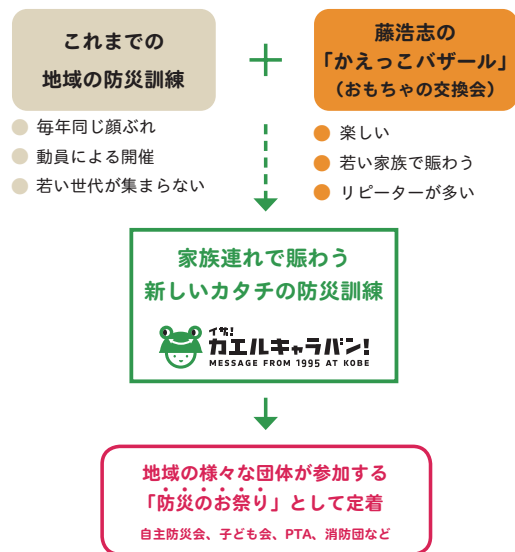
「イザ！カエルキャラバン！」は、阪神淡路大震災の被災者から教わった、防災の教訓や知恵を次の世代へ伝えるために、NPO 法人プラス・アーツと美術家・藤浩志が共同で開発した新しいカタチの防災訓練プログラムです。藤浩志のおもちゃの物々交換プログラム「かえっこバザール」のシステムと、ゲーム感覚で楽しみながら消火・救出・救護などの知恵や技を学べる「防災体験プログラム」を組み合わせたプログラムです。この新しいプログラムによって、これまで防災訓練に参加しなかった若いファミリーが積極的にプログラムに参加するようになり、2005年の阪神・淡路大震災 10 周年事業として神戸で開催して以来、全国各地や海を渡った海外でも開催されています。

楽しみながら しっかり学ぶ防災訓練

おもちゃの交換会と
楽しくアレンジした防災プログラムを
組み合わせた体験型防災イベント

◎ イザ！カエルキャラバン！

NPO 法人プラス・アーツ
藤浩志（美術家）
（2005 年～）



◎ イザ！カエルキャラバン！のしくみ

Start



①おもちゃをもってこよう！

いらなくなったおもちゃを「かえっこバンク」に持って行くと「カエルポイント」に換えることができる。



②好きなおもちゃをゲット！

「ショップ」に行くと、換えたポイント分のおもちゃと交換（かえっこ）することができる。



Point



③カエルポイントをためよう！

ポイントがなくなったり、おもちゃを持ってきていない子どもも「防災ワークショップ」を体験すると新たにポイントがもらえる。



Goal



④オークションに参加しよう！

たまったポイントで、人気の高いおもちゃが並ぶ「オークション」に参加することができる。

イザ！カエルキャラバン！



防災体験プログラム

被災者が語った被災地で本当に役立つ“知識”や“技”を分かりやすく伝えるため、子どもの興味を引く仕掛けを盛り込み、ゲーム感覚で楽しみながら「消火」「救出」「救護」などを学べるワークショップを開発。



水消火器でのあてゲーム

水消火器を使ってカエルの的をくるくる回し、カエルを振り返らせるゲームです。



毛布で担架タイムトライアル

毛布の両端をくるくる丸めて担架をつくり、重量のあるカエル人形を運びます。

【開発協力者】藤浩志（美術家）



対決！バケツリレー！

ゴミ箱や鍋など、水をすくうことのできるものでバケツリレーのコツを学びます。



ジャッキアップゲーム

意外と知られていないジャッキの使い方を楽しみながら学びます。

【開発協力者】藤浩志（美術家）



おたま劇場

人形や紙芝居などを使って分かりやすく子どもたちに防災の知恵や知識を伝えるプログラムです。



防災体操

消火、人命救助などイザ！という時の知恵や技を、楽しい体操を通して学ぶことができます。

【開発者】キスヒサタカ（アーティスト）



持ち出し品なあに？クイズ

1分間で地震時の持ち出し品12品目を覚えて、答えるクイズです。



紙食器をつくろう

新聞紙でコップやお皿を折った後、ビニール袋やラップをかぶせ、食器をつくるプログラムです。



家具転倒防止ワークショップ

ミニチュアを用いて、家具転倒防止グッズ等の使い方や効果を学んでもらいます。

【開発協力者】磨田孝一朗（アート&クラフト）



GURAGURA TOWN

買い物をしながらゴールに向かうすごろくゲームです。ゲーム中に防災に関するクイズが出ます。

【巨大版制作】KOSUGE1-16（アーティスト）



なまずの学校

防災の知識や災害時に必要な臨機応変な対応力を養うことができるカードゲームです。



SHUFFLE

AEDの使い方などの災害時に必要な知識や技の手順を覚えることができるカードゲームです。

【絵】寄藤文平（グラフィックデザイナー）

防災教育ゲーム・教材

◎ GURAGURA TOWN

NPO 法人プラス・アーツ（2005 年）
イラスト：加藤朋子
協力：apod
監修：吉川肇子、矢守克也
販売：プラス・アーツ HP 3,500 円（税抜）

町の中で買い物をしながらゴールを目指す防災すごろくゲームです。ゲームの途中で出題される「地震クイズ」に手持ちのアイテムカードで答え、災害時のトラブルを解決するために有効な方法を学んでもらいます。



◎ なまずの学校

NPO 法人プラス・アーツ（2006 年）
イラスト：西口芳恵
販売：プラス・アーツ HP 3,500 円（税抜）

震災後に発生する様々なトラブルを紙芝居形式で出題し、トラブルを解決するアイテムカードを出してもらい、得点を競うゲームです。震災時における「入手しやすさ」「使いやすさ」の観点から正解ごとに得点がついています。



◎ シャッフル

NPO 法人プラス・アーツ（2010 年）
イラスト：寄藤文平・北谷彩夏（文平銀座）
テキスト：寄藤牧子
販売元：幻冬舎 1,429 円（税抜）

災害時に役立つ様々な知識・知恵・技の手順を、遊びながら身につけることができるカードゲーム。AED の使い方などの手順が描かれた 4 枚のカードを、正しい順番に並べかえ、正解するとポイントがもらえます。



防災教育ゲーム・教材

みんなで遊んでたすカルテット

NPO 法人プラス・アーツ／公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（2014年）
イラスト：サタケシュンスケ
監修：吉川肇子
販売：プラス・アーツ HP 800円（税抜）

東日本大震災の教訓をもとにしたカードゲーム。「地震」「自分を守る」「サバイバル」など、10つのテーマ×4枚ずつの計40枚で構成され、同じテーマのカードを4枚揃えていくゲーム。カードを集める過程で、カードに書かれた解説を読み、防災の知識を学ぶことができます。



とっさのひとこと 防災編

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン／NPO 法人プラス・アーツ（2013年）
イラスト：北谷彩夏
監修：吉川肇子
無料ダウンロード：www.plus-arts.net/tossa/

東日本大震災の被災者約50名へのヒアリングから生まれた教材です。被災者が語った震災当時「苦労したこと」や「役立ったこと」を3コママンガにしています。最後の吹き出しにはセリフが入っておらず、そこに入る“とっさのひとこと”を考えることを通して、被災者の気持ちや状況を理解してもらいます。



考える防災教室

大阪ガス株式会社／NPO 法人プラス・アーツ（2014年）
デザイン：寄藤文平・北谷彩夏（文平銀座）
配布：大阪ガス供給エリアで無料配布（大阪ガスホームページより申込み可）

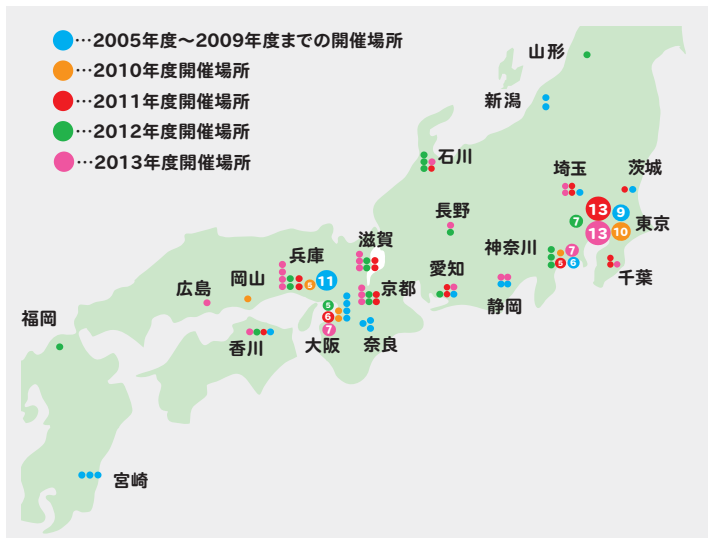
災害時のライフラインのない状況でも生きぬく知識や知恵を、クイズを通して学んでもらう教材冊子です。小学校の授業で活用しやすいよう、先生用副読本も制作し、授業に組み合わせて実施できる体験プログラムも掲載。



イザ！カエルキャラバン！

国内での拡がり

2005年に神戸で初開催をして以来、「イザ！カエルキャラバン！」の取り組みは全国各地に広がり、これまでに全国17都道府県、計210回以上開催されています。地域団体、行政、企業など、様々なパートナーと協働し、それぞれの独自のスタイルで「イザ！カエルキャラバン！」を展開しています。神戸市では、2006年から「神戸カエルキャラバン助成制度」が設立され、地域住民が主体となってこの防災訓練プログラムを実施する際に助成金の交付や防災訓練ツールの無償の貸し出しなどの支援が継続的に行われました。



● イザ！カエルキャラバン！の主な開催実績

- 2005 神戸カエルキャラバン 2005(約8,000人)
- 2006 イザ！カエルキャラバン！ in 環境エネルギー館(約800人)
- 2007 イザ！カエルキャラバン！ in 地震 EXPO(約1,200人)
- 2007 イザ！カエルキャラバン！ in ガスの科学館(約6,500人)
- 2008 イザ！カエルキャラバン！ in ジョグジャカルタ(約100人)
- 2008 イザ！カエルキャラバン！ in ひたちなか(約1,200人)
- 2009 イザ！カエルキャラバン！ in はんだ(約400人)
- 2009 イザ！カエルキャラバン！ in 東京文化発信プロジェクト
- 2010 イザ！カエル大キャラバン！ in HAT 神戸(約1,200人)
- 2010 イザ！カエルキャラバン！ in そなエリア東京(約1,200人)
- 2011 イザ！カエルキャラバン！ in ガスの科学館(約9,500人)
- 2011 イザ！カエルキャラバン！ in まるがめ(約500人)
- 2012 イザ！カエルキャラバン！ in 環境エネルギー館(約3,500人)
- 2013 イザ！カエル大キャラバン！ 2013(約1,000人)

計 210 回以上開催 / 延べ 20 万人以上が参加
(※海外での開催を含む)

企業との協働

「イザ！カエルキャラバン！ in ガスの科学館」

東京ガスのCSRの取り組みの一環として、東京の豊洲にある企業館で毎年大規模な「イザ！カエルキャラバン！」を実施しています。



地域との協働

「イザ！カエルキャラバン！ in 宮崎」

地域の人たちと事前ワークショップを開催し、オリジナルツールを制作。次年度以降は地域の力で継続開催されています。



行政との協働

「イザ！カエルキャラバン！ in 門真」

行政が主体となり、地域住民の防災力向上のために開催。消防局による起震車体験などのプログラムを実施しました。



学校との協働

「イザ！カエルキャラバン！ in 彩都の丘学園」

小中一貫校との協働事例。高学年の生徒が教え手となり、低学年の生徒たちに対してプログラムを実施しました。



イザ！カエルキャラバン！

◎ マンションでの展開

これまで地域コミュニティから孤立する傾向にあった大規模マンションの住民を対象に、「防災啓発」と「マンション内コミュニティの醸成」の2つを目的とした『イザ！カエルキャラバン！』を各所で実施しました。マンション住民向けにカスタマイズするために、マンション住民が体験しておくべきプログラムを独自に開発しました。具体的には、マンション内の防災倉庫に入っている備蓄品を暗記するクイズや実際に仮設トイレを組み立ててみたり、ろ過装置を使ってみる体験プログラムなどを実施しました。また、マンションによってはマンション内の住民だけでなく、広く地域のファミリーにも参加を呼び掛け地域と一体となって開催するものもありました。

◎ イザ！カエルキャラバン！ in ほたるまち

マンション管理会社のサポートのもと、マンション管理組合が中心となって「イザ！カエルキャラバン！」を開催。マンションの住民だけでなく、近隣のファミリーも対象として、マンションのふもとにある公開空地で実施し、当日は多くの人で賑わいました。



持ち出し品なあにクイズ (マンション編)

高層マンションの住民が各家庭で備えておくべき防災グッズを紹介するコーナー。



ペットボトルろ過器づくり

河川に近いマンションということで、ペットボトルを材料とした「ろ過器づくりワークショップ」を実施しました。



◎ イザ！カエルキャラバン！ in グランシンフォニア / ユトリシア

マンションデベロッパーが物件住民への防災サービスとして「イザ！カエルキャラバン！」を実施。社員が運営スタッフとして参加。マンションに備えられている非常用飲料水生成装置やマンホールトイレ設置体験や普段見ることない防災倉庫などでもプログラムを実施しました。



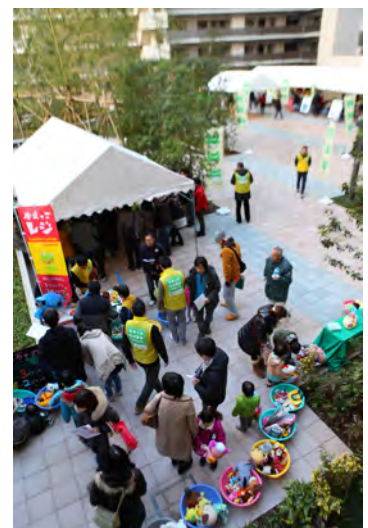
マンホール式トイレ体験

高層マンションの住民が各家庭で備えておくべき防災グッズを紹介するコーナー



マンション防災倉庫クイズ

住んでいるマンションの中にある防災倉庫を舞台にしたクイズプログラム。

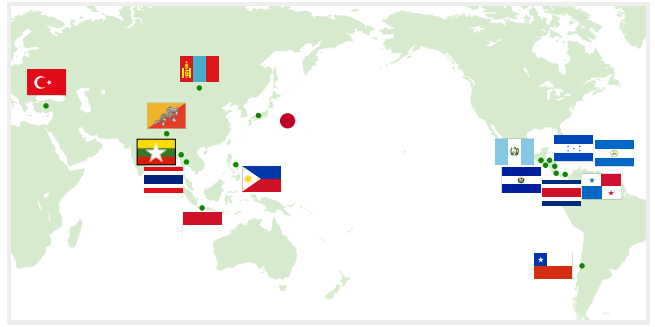


イザ！カエルキャラバン！



海外での拡がり

防災教育の先進国として、アジアをはじめとした海外の国々に対し、各国の防災教育を支援する活動の一環として「イザ！カエルキャラバン！」の普及に取り組んでいます。現地の政府機関、大学機関や NGO などと連携し、防災教育の担い手の育成を図るとともに、地域の特性に合わせてプログラムやシステムをローカライズすることで、持続可能かつ発展可能な独自の防災教育システムを構築できるよう支援しています。現在までにタイ、インドネシア、モンゴル、ブータン、グアテマラ、エルサルバドルなどに対して支援を行い、それぞれ独自の形で発展を遂げています。



インドネシア	ブータン	タイ
モンゴル	フィリピン	ミャンマー
グアテマラ	エルサルバドル	ホンジュラス
コスタリカ	ニカラグア	パナマ
トルコ	チリ	



インドネシア

2007年に始めて実施。翌年の2回目開催から、地元のNGOも加わり「イザ！カエルキャラバン！」を実施。プログラムもインドネシア版に再編集されました。以降、ガジャマダ大学、地元NGO、小学校が中心となり、地域主導の防災教育として拡がっています。



グアテマラ・エルサルバドル

現地の防災機関と連携し、日本と同様、事前講習と本番を通して防災プログラムの考え方や実施ノウハウを伝えた。帰国後も活動は拡がり、担い手となった現地の防災機関や青年海外協力隊の手によって、プログラムやツールもオリジナル版に再編集され継続的に開催されています。



モンゴル

2箇所のモデル校を対象として、政府の防災機関や小学校教員に対して事前研修を行い、「イザ！カエルキャラバン！」を開催した。翌年には防災教育に関するレクチャーと「イザ！カエルキャラバン！」のデモンストレーションを実施し、活動継続のための支援を行いました。



ブータン

プナカの小中学生約250名を対象とし、「イザ！カエルキャラバン！」を実施。事前に高校生20名を対象に事前講習会を行い、当日は講習を受けた高校生たちがファシリテーターとなり、地元の小学生に対して「イザ！カエルキャラバン！」を実施しました。



BOSAI 五種競技



スポーツ
×
BOSAI

競技を通じて、
体で覚える防災訓練大会。

◎ BOSAI 五種競技

NPO 法人プラス・アーツ
アスリートネットワーク、神戸市消防局：企画協力
(2010年～)

スポーツの要素を取り込んだ5つの防災プログラムを体験し、防災技術と体力を競い合う競技大会。「煙避難」や「水難救助」、「負傷者の搬送」、「消火器の使い方」といった災害時に役立つ様々な防災の技を、競技を通して、実際に体験しながら楽しく学ぶことができます。北京オリンピック銅メダリストの朝原宣治さんと神戸市消防局がタッグを組んで企画・監修しました。

◎ 種目



水消火器で的当てゲーム

水消火器を使って、カエルの的を狙うストラックアウトゲーム。消火器の使用手順などを学んでもらいます。



毛布で担架タイムトライアル

災害時でも入手しやすい毛布を担架代わりに使って、人を運ぶ方法を学んでもらいます。



カエルおんぶ搬送競争

災害時に負傷者を搬送する技を、体験しながら学んでもらう競技です。

【開発協力者】朝原宣治、神戸市消防局



カエル水難救助競争

川や海で溺れている人を救助することを想定し、救助の手順とロープの使い方を学んでもらう競技です。

【開発協力者】朝原宣治、神戸市消防局



キャタピラ煙避難競争

火災時の煙の中で避難する際に、出来るかぎり姿勢を低くして行動することを学んでもらう競技です。



防災体操

準備運動として、防災の知識をテーマにした体操で、楽しく体を動かしながら防災を学んでもらいます。

シェルターフェスティバル



身近な素材でつくる サバイバルシェルター

—建築家や学生たちが考えた
様々なシェルターが勢揃い



シェルターフェスティバル

NPO 法人プラス・アーツ
(2005 年～)



ベニヤの家

神戸芸術工科大学鈴木明研究室
素材：ベニヤ板



スタードーム

神戸カエルキャラバン 2005 スタードームチーム
素材：竹、麻ひも、シャツ



ワッフルドーム

神奈川大学曾我部昌史研究室
素材：新聞紙



ゴミ収集袋造

東京都市大学手塚貴晴研究室
素材：ゴミ収集袋



日用品でつくるティピー

東京工業大学塚本由晴研究室
素材：車体カバー、物干し竿、植木鉢など



すみかご

神奈川大学曾我部昌史研究室
素材：買い物かご、ビニール袋、傘袋



脚立シェルター

小山田徹
素材：脚立、ブルーシート



衣服の家 '09 ビニールコートハウス

女子美術大学眞田岳彦研究室
素材：ビニールコート、物干し竿



バンブーシート

大阪芸術大学宮本佳明研究室
素材：竹、シャツ、レジ袋、洗濯ばさみ

レッドベアサバイバルキャンプ



レッドベアサバイバルキャンプ

災害時に必要なことは、
ほぼキャンプで学べる。

どんな状況でも
たくましく生き抜く知恵や力を、
楽しみながら身につける避難生活体験

レッドベアサバイバルキャンプ

NPO 法人プラス・アーツ

神戸市消防局、大阪ガス株式会社、KIITO : 協力
(2011年～)

対処療法的な防災ではなく、災害時に生き抜く「たくましさ」「2つのソウゾウリョク（創造力と想像力）」を養う場を作りたいという思いから、ゼミ形式でキャンプサポーターと共に作り上げたプログラム。防災時の知識はもちろん、どんな状況でもたくましく生き抜く知恵や力を、楽しみながら身につけることができます。もしもの時の「備え」を、頭と体しっかりと刻み込む1泊2日の防災キャンプです。

レッドベアサバイバルキャンプのしくみ



開催実績

「レッドベアサバイバルキャンプ」2011

神戸の摩耶山上にある野外体験施設（神戸市立自然の家）において、『レッドベアサバイバルキャンプ』を初開催。家族ごとにテントを張って宿泊しました。



「レッドベア火育+サバイバルキャンプ」2012

大阪ガスの「火育（ひいく）」プログラムをプラスして開催。「阪神・淡路大震災」当時に避難所として実際に活用された「旧二葉小学校」を会場として実施しました。



レッドベアサバイバルキャンプ

🎯 キャンププログラム



語り部さんのお話

阪神・淡路大震災当時の公園でキャンプ生活送った体験などのお話を聞きます。



救急救命講習

人工呼吸、心肺蘇生、AEDの使い方を、実技講習で学習します。



力をあわせてテントを張ろう！

家族みんなで力を合わせて、宿泊することとなるテントを張り上げます。



ロープワーク講習

ロープワークの実技指導。ロープの様々な結び方を身につけます。



火起こし体験

「まいぎり式」という火起こし方法を体験。参加者同士で協力し合い、火起こしに挑戦します。



ペットボトルろ過器づくり

ペットボトルの中に、マスク、わた、活性炭、砂、小石などを層にして詰め、ろ過器をつくります。



紙食器づくり

チラシや新聞紙を折って、紙の食器をつくります。ビニール袋をかぶせたり、ラップを敷けば、食器として使うことができます。



カマドで鍋ごはん

カマドの火でごはんを炊きます。薪のくべ方や火の管理の方法を学びます。



おいしい炊き出しごはん

チラシを折って作る紙食器で、炊き出しごはんを食べます。テーブルには自作の空き缶ランタン。



灯明

並べた紙灯籠に火を灯します。様々な模様が夜のキャンプ場に浮かび上がります。



キャンプファイヤー

キャンプファイヤー（焚き火）を囲み、今日一日を振り返ります。



サバイバルごはんをつくろう！

おにぎりで作るバラバラチャーハンや、少量の水でできる乾物サラダなどをつくります。

レッドベアサバイバルキャンプ

🎯 オリエンテーリング



1 マップを見て、チェックポイントをまわる。



2 チェックポイントで復習ゲームに挑戦！



3 ゲームの成績に応じたポイントシールをもらう。



4 基準をクリアすれば、技バッチをGET！！



火おこしチャレンジ

制限時間内に火をおこすことができるかを試すチャレンジです。



ロープワークチャレンジ

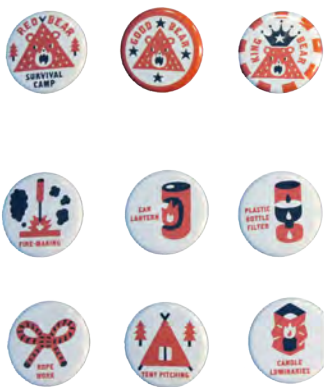
昨日学んだ3種類の巻き方を使って、タイムトライアルに挑戦します。



救急救命クイズ

救急救命の手順に沿ってクイズが出題。実際に訓練用人形をつかって答えます。

🎯 オリジナルツール



オリジナル缶バッチ

キャンプを通して、サバイバル技を習得するともらえる技バッチ。参加賞やMVPになるともらえる特別バッジも。



技バッチをゲットして喜ぶ子どもたち



Tシャツ

キャンプサポーターが身につけるTシャツ。寄藤文平氏デザイン。



軍手

オリジナル作業用軍手

レッドベアサバイバルキャンプ



国内外での拡がり

地域の防災キャンプ活動として継続して実施していけるように、レッドベアサバイバルキャンプのシステムやプログラムを広げています。地域独自のプログラムを開発する企画ワークショップやスタッフへの事前研修会を実施するなどの開催支援を行っています。起源の神戸では有志のボランティアクラブが、いわきでは公民館、岡山では高校、タイでは社会貢献組織が担い手となり、レッド部サバイバルキャンプを展開しています。各地で生まれたオリジナルのプログラムの数だけ、オリジナルバッジが増えていっています。



いわきオリジナル技バッジ

ナイトウォークや水難救助、フラダンスなど。



タイオリジナル技バッジ

ウォーターブーツ、ペットボトルライフジャケット、サバイバルホイッスルなど。



神戸

2011年にプラス・アーツと共に一緒にプログラムを開発した企画ゼミメンバーを中心に、レッドベアサバイバルキャンプクラブを結成。毎年秋に開催するキャンプの企画・運営を中心として年間を通じて活動しています。キャンプはファミリーを対象に毎年開催しています。



いわき

いわき市教育委員会が主催し、小学生対象の夏休みキャンププログラムとして、市内6地区の公民館で実施。公民館を中心として、自治会、PTA、女性会、消防署などが協力して開催しています。公民館毎にいわきオリジナルのプログラムが毎年できています。



岡山（真庭高校）

文化祭の中で毎年レッドベアブースを展開しています。事前にプログラムを考えるワークショップをおこない、準備制作も高校生たちが行っています。文化祭当日は、高校生が地域の子どもたちに向けて、真庭高校オリジナルサバイバルゲームを実施しています。



タイ

現地での企画ワークショップを実施し、タイの洪水被害をテーマにした4プログラムを含む8つのオリジナルプログラムを開発。カウンターパートナーとなるDESIGN FOR DISASTERをはじめ、国際協力基金や現地協賛企業の支援のもと、当日は小学校でデイキャンプを実施しました。



BOSAI スタンプラリー



災害に負けない
知識を学ぼう!

ショッピングセンターで
親子が一緒に楽しめる
防災スタンプラリー

◎ イザ! カエルキャラバン!

NPO 法人プラス・アーツ
三井不動産株式会社 (ららぽーと)
(2011年～)

三井不動産グループのCSR活動の一環として実施しているプロジェクト。家具転倒防止グッズの効果や取り付け方、用途に応じた防災グッズの使い方、水の備蓄やトイレ対策などを、子どもと一緒に楽しみながら学べるよう、スタンプラリー形式でワークショップを実施。スタンプを4つ以上集めると、「防災ハンドブック」や「キッズ防災マスター認定証」がもらえます。また、簡易トイレや防災ハンカチなどの災害時に役立つグッズを抽選でプレゼント。開催する各地の自治体とも連携し、それぞれの地域で想定される災害の種類や防災マップの紹介なども行います。

◎ スタンプラリーのしくみ

1 受付

- 1) スタンプラリーシートの配布
- 2) ラリーのルール説明



スタンプラリーシート

2 各ワークショップを体験

- 1) 各ワークショップをお客様が体験
- 2) 体験するとスタンプラリーシートにスタンプを押印
- 3) 4つのワークショップを回るとコンプリート



3 景品交換

- 1) 受付にてスタンプシートをチェック
- 2) ガラポンで出た玉の色に応じて景品をお渡し
- 3) 参加賞として参加者全員に「キッズ防災マスター認定書」「バッジ」「防災ハンドブック」をプレゼント



BOSAI スタンプラリー

コンテンツ一覧



家具転倒防止

家具と家具転倒防止グッズのミニチュアを使用して、家具転倒防止の重要性、各グッズの使用法や効果を学習するコーナー。



防災グッズ

会社や家、常日頃から携帯しておくべきグッズ、備蓄しておく防災グッズなどの紹介。



身の回り品で応急手当

緊急時に身の回りにあるものでできる簡単な手当ての方法と、自分たちでできる応急処置の紹介。



防災カードゲーム

会社や家、常日頃から携帯しておくべきグッズ、備蓄しておく防災グッズなどの紹介。



水消火器で的あてゲーム

火を模した的を使用して、楽しくゲーム形式で消火器の使い方を学ぶコーナー。



水害紙芝居

水害に関する知識や正しい避難方法を伝える紙芝居。間違い箇所が描かれており、子供たちにどこが間違っているか探してもらおうコーナー。



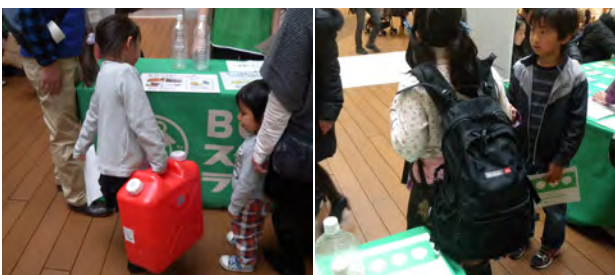
サバイバルキッチン

災害時の「食」「キッチン」に関する知識を集めたコーナー。非常時に役に立つ保存食の活用法や、レシピ、キッチン用品、ローリングストック法、紙食器の折り方などを紹介。



サバイバルトイレ

災害時のトイレの状況やトイレを使う際に必要な水の量を知ってもらうとともに、トイレに関するクイズや、携帯トイレの使用方を紹介。



マンション防災

一般的な居住地としての高層マンションでの生活において、必要とされる備蓄品やその量をお伝えするとともに、水を高層階に運ぶ技なども紹介。



地域防災情報

店舗が立地する地域自治体が提供している、防災マップや災害時に必要な情報をお伝えするコーナー。一部、市や区の職員、消防署員の方も会場に来て頂き防災に関するワークショップを展開した。

BOSAI スタンプラリー

🎯 ブランディングツール



のぼり

ショッピングセンター内の酢田プラリー
コーナーを賑やかに演出します。



テーブルクロス

ワークショップブースや受付コーナーを演出するテーブル
クロス。



キッズマスター認定証

スタンプをそろえらるともらえるキッズ
防災マスター認定証。



バッチ

参加賞や景品としてもらうことのできる3種類のオリ
ジナルバッチ。



防災テキストブック

「家具の転倒防止」や「災害時の連絡」、「トイレの備え」など、知って
おく役立つ防災の知識を、わかりやすいイラストでまとめた防災のバ
イブルです。

2 家に帰ってすぐできる 家具の転倒防止

◎合わせてすぐできる

◎ 家具の設置の工夫

◎ その他の家の中の防災対策

1 知ることからはじめる防災 地震のメカニズム

◎ 日本列島周辺のプレート

◎ 「プレート境界型地震」のメカニズム

◎ 「内陸活断層型地震」のメカニズム

4 あの手この手を知っておく 災害時の連絡

◎ 家族で決めておく連絡ルール

◎ 連絡手段

◎ 災害伝言サービス

伝言電話番号	伝言時間	伝言回数	伝言料
17734444	48時間	1~10件	30秒/件
17734444	サービス終了時まで	10件	100秒/件
17734444	6か月	20件	100秒/件

SAVE YOURSELF



SAVE
YOURSELF

東京ガス全社員向けの
防災啓発プロジェクト

SAVE YOURSELF

—まず「あなた自身」が
生きていること。



東京ガス

SAVE YOURSELF キャンペーン

東京ガス株式会社

NPO 法人プラス・アーツ

(2008 年～)

全社員の防災に対する意識を変えてもらうことを目標に、「SAVE YOURSELF- 自分たちが生き残らなければ東京の街は守れない-」をメッセージに様々なプロモーションを展開。

また現在では、この「SAVE YOURSELF」キャンペーンは、一般顧客に向けても発信されており、東京ガスのCSR の1つの柱となっている。



防災フェア

9月1日の防災の日に合わせて、東京ガス本社ロビーにて、防災グッズや東京ガスの防災の取り組みを期間限定で展示した。



2008

防災グッズの
セレクト展示



2009

東京ガスの防災の
取り組みを紹介。

2010

“震災のリアリティ”
をテーマに実用的な
防災術を展示。



SAVE YOURSELF

社員に向けた防災グッズのセレクトショップ

防災フェアの実施に合わせてセレクトショップを展開。社内イントラネット上では、毎年9月・1月の年2回、1ヶ月間の期間限定で防災グッズのセレクトショップをオープン。



2009
無印良品とタイアップしてオリジナルの防災グッズセットを販売



イントラネット
期間限定で
防災グッズを販売

社内報「GAS」

社内報「GAS」表紙・裏表紙を使い、「家具の転倒防止」や「防災グッズ」などの地震に備える知識や知恵をテーマ毎に各号の表紙で紹介。各号の内容をまとめたカレンダーも制作。



「GAS」
毎号、様々な防災の知識を分かりやすくまとめ、表紙に掲載（全10号）。

カレンダー

「GAS」でまとめた防災の知恵をカレンダーとして再編集し、社員に配布した。



SAVE YOURSELF



一般向けホームページ「安全と防災」リニューアル

東京ガスホームページ「安全と防災」のページを、キャンペーンキャラクターを用いて全面的にリニューアル。



<http://www.tokyo-gas.co.jp/safety/index.html>



タブロイド紙 / マニュアルブック / パンフレット

防災フェア展示内容の知恵・技をまとめたタブロイド紙や財布に入る防災マニュアルを社員へ配布。一般向けには「安全と防災」パンフレットを新しくリニューアルした。



パンフレット

転倒防止対策と持ち出し品のチェックリスト付き



タブロイド紙

2010年防災フェアの展示内容の知恵・技をタブロイド紙にまとめて配布。



マニュアルブック

片面は災害時の緊急連絡カード、もう片面は防災知識のトラマキ、折りたためば財布に入れて持ち歩ける防災マニュアル。

SAVE YOURSELF



ノベルティグッズ

キャンペーン初年度は、「SAVE YOURSELF」のメッセージを込めた3枚組ハンカチを社員へ配布。それ以降、一般配布用へも拡がりをみせ、様々なノベルティグッズを制作。

大判ハンカチ

SAVE OUR TOWN
SAVE EVERYONE'S LIFE
SAVE YOUR FAMILY

それぞれのメッセージが描かれた3枚組
+パンフレット付き



サララップ

ガスメーター復帰操作方法に加え、災害時のサララップの活用方法が描かれている。



防災教育カードゲーム
「SHUFFLE」

応急手当の知恵やサバイバルの技など、遊びながら災害時に役立つ知識が身に付くカードゲーム。ガスメーター復帰方法も覚えることができる。

SAVE YOURSELF



クリアファイル

裏面にはガスメーター復帰動作方法が描かれている。



大判ハンカチ

災害時におけるハンカチの様々な活用法をイラストで表現スゴロクの盤として遊ぶこともできる。



Tシャツ

防災フェア期間中にスタッフが着用。また、イントラネットでも販売。

防災ドロップ

3年間保存のきく防災ドロップス ガスメーターの保存方法がウラ側に描かれている。



地震 ITSUMO + 無印良品



+

無印良品

くらしの備え。
いつものもしも。

いつもの身の回りのモノが、
もしもの備えになります。

地震 ITSUMO + 無印良品

株式会社良品計画
NPO 法人プラス・アーツ
(2008 年～)

2008 年から毎年、無印良品有楽町店 ATLIER MUJI で、
防災をテーマにした展覧会「地震 ITSUMO 展」を開催。

2011 年、東日本大震災をきっかけに、いつものもしも
プロジェクトが始動。展覧会だけでなく、無印良品全
店での防災啓発キャンペーンを展開中。

地震 ITSUMO

+

無印良品

「地震 ITSUMO + 無印良品」展

無印良品有楽町店 ATLIER MUJI にて開催。無印良品のアイテムの中から災害時に役立つモノをセレクトし、実
験的な『防災グッズセレクトショップ』を展開した。



2008

会場構成は、みかんぐみの曾我部昌史氏が担当。
無印良品の収納ボックスを使ったユニークな展示空間をつくり出した。



セレクトしたアイテムの
災害時における活用方法も
合わせて展示

地震 ITSUMO + 無印良品



地震 ITSUMO 展 ～くらしの備え。いつものもしも。～

日常のさまざまな「もしも」を想定しながら、身の回りの日用品の中から、「何をどのように備えるか」を提案。
無印良品有楽町 ATELIER MUJI での展覧会のほか、全国の無印良品大型 16 店舗でも展示を行った。



トークショー

期間中には、日々の備えの知恵と技を
実演を交えながらレクチャーする
「地震イツモ講座（無印版）」も開催



2011

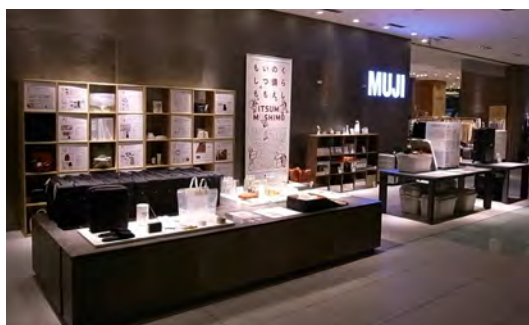
15 のカテゴリに分けて様々な備えの
あり方を提案。身近なものでできる防
災の技を体験できるコーナーも設置。



アクタ西宮店



MUJI 東京
ミッドタウン店



地震 ITSUMO + 無印良品

◎ パンフレット／リーフレット



2008

2008年の「地震 ITSUMO + 無印良品」展で配布。
災害時に役立つアイテムをセレクトし、どのような時に有効なのかをイラストで紹介するリーフレット。



2011

2008年のリーフレットからアイテムを見直し、「～くらしの備え。いつものもしも。～」に合わせてイラストも刷新し、全国で配布。

緊急連絡カード

各種災害用伝言サービスのマニュアルと緊急時に必要な連絡先や避難場所などを書き込める携帯ガイドブック。

リーフレット

「～くらしの備え。いつものもしも。～」のリーフレット（見開き A1 サイズ・A4 サイズ仕上げ）無印良品のアイテムを15のカテゴリに分けて様々な備えのあり方を提案。身近なものでできる防災の技も掲載。



地震 ISTUMO.COM



防災マニュアルの
アーカイブサイト
www.jishin-itsumo.com

🎯 地震 ISTUMO.COM

地震イツモプロジェクト
文平銀座
NPO 法人プラス・アーツ
協力：株式会社木楽舎
株式会社ポプラ社
東京ガス株式会社

イツモノートの内容を
再編集し無料公開



🎯 体験記
『地震イツモノート』



『SAVE YOURSELF』
でまとめた防災の知識

🎯 備えの知識
『地震イツモキット』



『地震 ITSUMO 展 in バンコク』

ALWAYS
PREPARE
LIVING WITH CHANGES

“Always Prepare
: Living with changes”
Exhibition

地震 ITSUMO 展 in バンコク



期間：2012/9/28～2013/1/6

会場：タイランド・クリエイティブ & デザイン・センター (TCDC)

主催：国際交流基金バンコク日本文化センター／タイランド・クリエイティブ & デザイン・センター／NPO 法人プラス・アーツ

「防災は、地震のための特別な努力ではなく、私たちのライフスタイルの中に自然に横たわるものであってほしい」—そんな願いから生まれた『地震 ITSUMO プロジェクト』のコンセプトに基づき、日本での阪神・淡路大震災の教訓をもとに、神戸や東京を中心に展開されてきたクリエイティブな防災活動の紹介と、タイでの大洪水をも踏まえた、洪水の現状とタイでのこれからの取り組みを展示致しました。本展覧会に向けて、プログラム開発のためのワークショップ実施や、講演会やデモンストレーションを行い、展覧会を軸とした、継続的な展開を見据えたプロジェクトとなりました。

Phase-1

被災者を対象としたリサーチプロジェクト



Phase-2

地域・ファミリー向け防災啓発プロジェクト



Phase-3

クリエイターと協働した防災啓発プロジェクト



タイ版 洪水対策プログラム 開発ワークショップ



プラス・アーツ理事長永田から日本での防災教育の取り組みをレクチャーした後、タイの洪水をテーマにしたプログラム開発のワークショップ・エスキスを実施。最終的なアイデアを展覧会で発表しました。

デモンストレーション 「BOSAI スタンプラリー」



会場前のロビーで「イザ！カエルキャラバン！」のスタンプラリーバージョン『BOSAI スタンプラリー』を開催。防災カードゲーム「なまずの学校」と携帯用「防災マニュアルブック」をそれぞれタイ語にして制作しました。

『EARTH MANUAL PROJECT 展』

EARTH MANUAL PROJECT 展

**災害大国は、
防災大国に、なれる。**

日本を始め災害多発国の
クリエイティビティあふれる
防災活動を紹介



EARTH MANUAL PROJECT 展

期間：2013/10/4～10/24

会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸

主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸

共催：特定非営利活動法人プラス・アーツ

助成：国際交流基金

協賛：AIG グループ

世界中から優れた防災活動を集め、全世界のクリエイター・市民・NPO・行政・企業が共有・連携・相互学習できるプラットフォームを創設していくプロジェクト“EARTH MANUAL PROJECT”。その最初の一步として、日本の神戸や東北をはじめ、自然災害が多発しているインドネシア、タイ、フィリピンなどの地域や国々の「+クリエイティブ」な取り組みや活動を厳選し、その背景、プロセス、取り組み側の姿勢、成果と課題を紹介する「EARTH MANUAL PROJECT 展」を開催しました。



マニュアル

各プロジェクトのブースに、その活動の概要が書かれたマニュアル（紙面）が自由に取っていただけるよう設置されており、集められたマニュアルは、製本してオリジナルの“マニュアル冊子”にして持ち帰ることができるよう、製本スペースが設置されました。

『EARTH MANUAL PROJECT 展』

🎯 イベント / ワークショップ



世界の TAKIDASHI キッチン

被災した方々の声をもとに、各国の料理人が考えた炊き出しメニューを販売します。その他、炊き出しの課題に対するデザインの提案や、紙食器づくりの体験コーナーなど、災害時の対応・備えをおいしく、楽しく学べるプログラムを実施しました。



“遊びながら学ぶ” 地震ゲームを作る デザインワークショップ

6日間かけて、タイを代表するゲームデザイナー・ラッティゴーンさんと、地震をテーマにしたゲームを作るワークショップを行いました。ラッティゴーン氏と一緒にグループワークを基本とし、試作品をグループ内で遊びながら検証しながら、4つのグループでそれぞれの防災ゲームを開発。

週末には「防災ゲーム大会」を開催し、実際に参加した親子と一緒にゲームの実践をおこないました。



身の回り品でウエットスーツづくり



身の回り品でウエットブーツづくり

レッツ！サバイバルワークショップ

災害時に身の回りのものを使って、工夫して生活できるための知恵や技を学ぶ、ワークショップを行いました。タイにおいて、日用品を活用した洪水対策知識・技術の普及や防災教育に取り組む Design for Disasters のウィパーウィー・クナーウィチャヤーノンさんに、タイの洪水から身を守る技を学ぶWSを実施して頂きました。

『EARTH MANUAL PROJECT 展』



イザ!

カエルキャラバン!

楽しく防災を学ぶさまざまなプログラムを実施しました。日本の防災プログラムがインドネシアに渡り、そこで独自に発展したインドネシア版キャラバン「KC (イカチエ)」のプログラムも同時に実施しました。

🎯 レクチャー

「コミュニティ・アーキテクト イカプトラ」三夜連続レクチャー

【第一夜】 住み続けながら拡張する復興住宅「コアハウス」

出演者 | イカプトラ (建築家 / ガジマダ大学准教授 [インドネシア])

曾我部 昌史 (建築家 / みかんぐみ / 神奈川大学工学部教授)

【第二夜】 クリエイターは復興期の被災地とどのように関わっていくべきか

出演者 | イカプトラ

高津 玉枝 (起業家 / 株式会社福市代表取締役)

【第三夜】 国境を越えて、BOSAIを地域に根付かせる試み

～イザ!カエルキャラバンの事例から学ぶ～

出演者 | イカプトラ

永田 宏和 (企画プロデューサー / NPO 法人プラス・アーツ理事長)



レッツ! サバイバル

「アイデアと工夫」というデザインで、生きろ世界。

出演者 | ウィバーウィー・クナーウィチャヤーノン (建築家 / デザイナー

/Design for Disasters 共同創業者 [タイ])

永田宏和 (企画プロデューサー / NPO 法人プラス・アーツ理事長)

タイと日本のクリエイターが挑んだ、災害時に身の回りの物を使った「生きるアイデア」の収集と共有のプロジェクト。災害発生時、生き延びるために、クリエイターに何ができるのか、両者の対談から探りました。



ゲームで社会課題に挑む

Save The World With GAME

出演者 | ラッティゴーン・ウッチェゴーン (ゲームデザイナー / Club Creative 代表 [タイ])

タイを代表するゲーム・デザイナー・ラッティゴーン氏。これまでに「環境汚染」「持続可能な社会」「デモクラシー」などをテーマにゲームを制作。ラッティゴーン氏が普段、どのような手法を用いてゲーム制作に取り組んでいるか、詳しく語っていただきました。

防災ノベルティグッズ

大判ハンカチ

木楽舎（地震 ITSUMO）
三井不動産レジデンシャル
良品計画（地震 ITSUMO+ 無印良品）
東京ガス（SAVE YOURSELF）

災害時における大判ハンカチの
様々な活用法をイラストで表現し
ています。子どもたちが避難所で
遊べるように「すごろく」も描か
れています。



防災マニュアルブック / 災害時の連絡ガイドブック

木楽舎（地震 ITSUMO）
良品計画（地震 ITSUMO+ 無印良品）
東京ガス（SAVE YOURSELF）
中部ガス（SAVE YOURSELF）
三井不動産レジデンシャル
パークシティ武蔵小杉
SOUTH GATE TOWER
パークタワー滝野川
つなぐネットコミュニケーションズ
大成有楽不動産
AEON
TCDC/ 国際交流基金
（ALWAYS PREPARE 展）



表面：防災の技が手順と共に描か
れた防災マニュアル裏面：災害時
の連絡方法と連絡先を記入する欄
で構成されています。

カードサイズなので財布や手帳に
収納可能です。



EXIT TO SAFETY [デザインにできること]展



デザインの視点から
安全への出口を探す
「クリエイティブ」な展覧会



Exit to Safety
[デザインにできること]展

アクシスギャラリー、NPO 法人プラス・アーツ
(2007年,2010年[巡回展])

いつやってくるか分からない都市型大地震。知ってはいても何をしたらよいのか分からないのが現状だ。しかし非常時は、日常の延長線上にやってくる。本展は、災害の恐ろしさを伝える展覧会ではない。一步を踏み出し、デザインの視点から安全への出口を探す「クリエイティブ」な展覧会である。この大きなテーマの下、日々の生活のなかでデザインに何ができるのか、7組のデザイナーがチャレンジする。



2007

アクシスギャラリーでの展示の様子

2010 (神戸巡回展)

「神戸+デザイン」での巡回展の様子



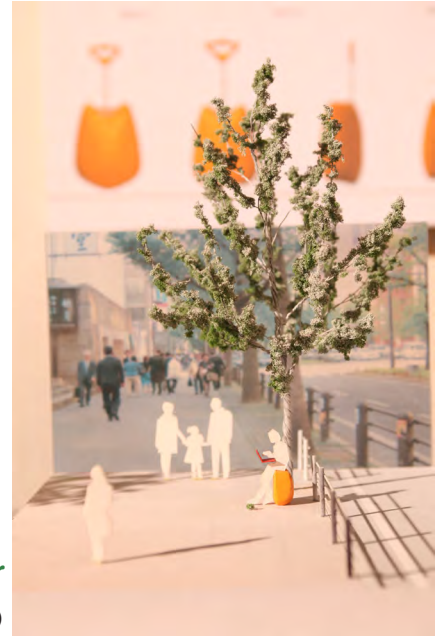
EXIT TO SAFETY [デザインにできること]展

7人のデザイナーによる作品



IZAt/Immediate Zip Aid Tarp

野老朝雄 (TOKOLOCOM) + 今北仁 (A.A.O)



Carry Chair

惣那裕樹 (E-DESIGN)



Spring Bear

石井洋二 (サン・アド)



移動させるための景色

中央アーキ



100 Things to Survive

古平正義 (flame)

震災のためのピクトグラム

小泉均 (TypeShop_g)



防災グッズデザインコンペ



「防災グッズを日常化する」
という視点から
新たな防災グッズを提案

◎ 防災グッズデザインコンペ

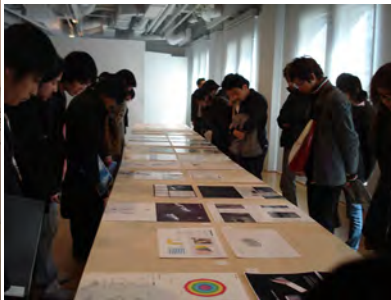
NPO 法人プラス・アーツ
(2007年, 2008年)

『非日常と日常の交差』というテーマを掲げ、防災グッズの機能性やデザイン性を高め普段から持ち歩きたくなるようなグッズに変身させたり、普段持ち歩いている使い慣れた日常品のなかに防災時に役立つ機能を1つまたは複数付加させたり、様々なアイデアやデザインによって、社会的な課題の改善に寄与できるような提案を募集した。



2007

アクシスギャラリーでの優秀作品の展示



審査会の様子



審査会の様子

2008

「BO-SAI 2008 in 豊洲」での優秀作品展示の様子



防災グッズデザインコンペ

◎ 優秀作品 (2007)



レジャーシート

八木原賢一

COVERS

渡辺ゆうか



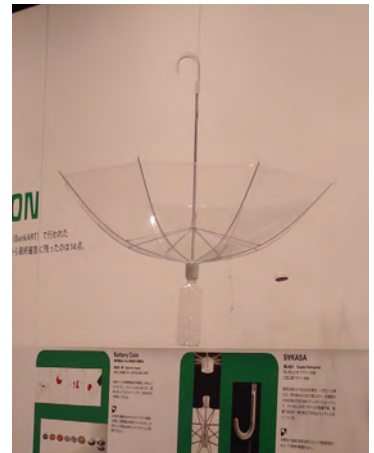
Battery Coin

岩田征一郎



ガムテープ専用油性ペン

酒井 博基



SAKASA

福山裕大

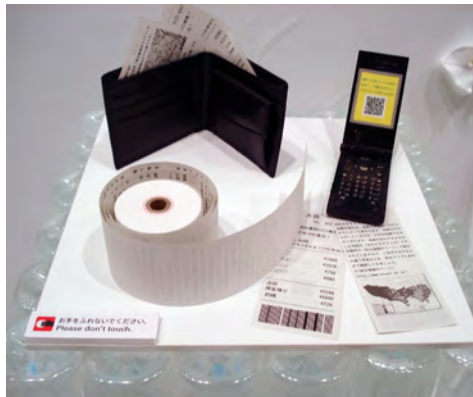


レジ袋

渡瀬聡志

災害時に役立つレシート

久川尚太



防災グッズデザインコンペ

◎ 優秀作品 (2007)



chool Toilet Chair

出口良知



BOO-BOO-CHARGER

久川尚太

night cloud

長谷川聡



Emergency Goods For Children

高橋 陽一、白井 裕二、坂上 直哉、
馬場 泰、前原 聡、高瀬 和明

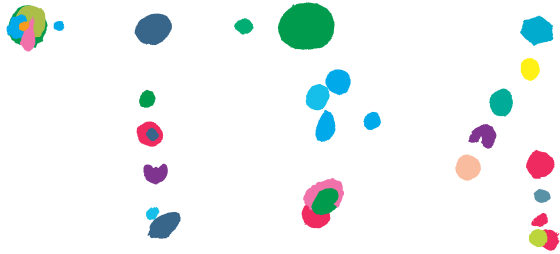


VITAL SUPPLY

松岡秀憲



阪神・淡路大震災＋クリエイティブ タイムライン マッピングプロジェクト



震災からの復興に向けて
クリエイターはいつ、
誰のために、何ができるのか。
過去を見直し、
これからの行動につなげる
継続的リサーチ・プロジェクトです。

<http://tm19950117.jp/>

阪神・淡路大震災＋クリエイティブ
タイムライン マッピング プロジェクト



阪神・淡路大震災＋クリエイティブ
タイムライン マッピングプロジェクト

「阪神・淡路大震災＋クリエイティブ」タイムラインマッピングプロジェクト」は、1995年1月17日からこれまでに
おこなわれたクリエイティブな分野における支援活動を調査してタイムライン＝時間軸におとしこんだ年表を制作、さ
らに各活動の概要やインタビュー、気づきのレポートなどさまざまなコンテンツを盛りこんだ複合的な取り組みです。



ウェブサイト

<http://tm19950117.jp/>

リーフレット



「POST 3.11 これからデザインにできること」展
アクシスギャラリー (2011)



東日本大震災復興支援「つくる事が生きること」神戸展
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (2013)

そなエリア東京



そなエリア東京
防災体験学習施設

72 時間生き抜く知恵を
体験を通して学ぶ
国営の防災体験学習施設



国営東京臨海広域防災公園 防災体験学習施設
そなエリア東京

企画：博報堂、プラス・アーツ（2009 年）
運営：西武造園・NHK アートパートナーズ
運営協力：プラス・アーツ（2010～12 年）

首都圏での大規模災害に備え整備された東京臨海広域防災公園内にある、体験型の防災学習施設。1Fの「東京直下72h TOUR」は、首都直下型地震の発災から避難までを、ニンテンドーDSで出題されるクイズに答えながら、72時間生き抜く知恵を学ぶ防災体験ツアー。2Fの防災学習ゾーンには、首都直下型地震を分かりやすく紹介するミニシアターや、PCによる防災クイズコーナー、世界の防災グッズと防災ゲームの展示が常設され、防災ゲームはその場で体験することも可能。



東京臨海広域防災公園



国営公園面積 6.7ha 都立公園面積 6.5ha



本部棟

東京臨海広域防災公園は、首都直下地震等の大規模な災害発生時に、現地における被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「災害現地対策本部」等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害医療の支援基地として、東扇島地区（川崎市）の物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設です。

整備の方針

- (1) 平常時には関係機関が連携して防災に関する情報交換や各種シミュレーション・訓練など、発災時に備えた活動を行う場
- (2) 国民がさまざまな体験・学習・訓練を通じて、防災への関心を高め、災害に対応できる知識や知恵、技術を習得する場
- (3) 臨海副都心の都市集積・集客性を生かした魅力ある空間

そなエリア東京

防災体験学習施設「そなエリア東京」



東京直下 72h TOUR

72 時間を生き残るためにどうするか？首都直下地震の発災から避難までの流れを体験するツアー。被災した町を再現したジオラマの中を「ニンテンドー DS」から出題されるクイズに答えながら進みます。



エントランス

発災から避難までの流れを体験するツアー。「ニンテンドー DS」を受け取りスタートします。



再現被災地（ジオラマ）

東京首都直下地震（震度 6 強）直後の東京の街を再現。DS の問題を解きながら進みます。



避難場所

防災倉庫やテント（ティピー）の展示を見ながら、避難生活を生き抜く方法を学習します。

72 時間生き抜くヒント

避難場所ステージの壁面を一面使用した展示。72 時間を生き抜く知恵や工夫を、イラストでわかりやすく紹介。パネル中段は、災害時に役立つグッズを壁面に貼り付け、イラストで使用方法を簡潔に説明しています。パネルの下段は、災害時の連絡方法やバケツリレーのコツなど、災害時に役立つ知識を分かりやすくまとめています。



防災ギャラリー

フレキシブルな展示ギャラリー。世界の防災用品や各種防災ゲームが展示されていて、ワークショップ空間では実際にゲームを楽しむことも出来ます。



世界の防災グッズや防災ゲームをセレクトして展示。体験コーナーでは、防災ゲームを体験したり、防災教材を使って学ぶことができます。